


法学部

教授 高橋寿一



入学おめでとうございます。皆さんはどのような大学生活を送っていくのでしょうか。私も2年前に本学に赴任したばかりの新人(歳はとっている新人)です。この2年間、専修大の学生を見てきて、「半径1m」の世界でしか生きていない学生が随分いるなあ、という感想を持っています。つまり、自分の周りの出来事にしか関心を払わず、その外の世界には関心もなく、見ようもしない学生が多いなあ、という印象です。新入生の皆さんには、是非自分の外側の世界に眼を向けて欲しいと切に思います。

本書は、コペル君という主人公が、叔父さんとの会話や様々な経験を通じて自分が社会的存在であることを自覚していく物語です。最初の本は昭和初期に出版されたのですが1982年に岩波文庫でも発売され、さらに近年、マガジンハウスから漫画本(作画:羽賀翔一)としても出版され、驚異的な販売部数に達しました。人が社会的存在であることを自覚するプロセスはどの時代でも同じです。それが内向き志向の若い人たちの心の琴線に触れたのかもしれない。

世界は今、大きな試練の時を迎えています。たとえば、地球温暖化は今年の台風被害に象徴されるように日本や東京にとっても無縁な話ではありません。また、日本が返済不可能なほどの借金を抱えている事実をご存知ですか?これなども、皆さんの将来に大きな負の影響をもたらす危険性を抱えています。自分の直近の世界にだけ関心を向けるのではなく、その外側の日本や世界を見てみましょう。あなたが、30年後にも生き残っているために…



吉野源三郎(1982)『君たちはどう生きるか』岩波書店

本館: K/909/Y92 103266516
神田分館: X/080/I95B/Yos 700126220



読書のスルメ2020

